

「介護施設ぶらっとおさんぽツアー」開催報告

◆キーワード

- 1 認知症サポーター
- 2 施設見学
- 3 連携・協働・共生

～地域・認知症・介護サービスの共生を目指して～

都道府県・市町村名

ふりがな しゃかいふくしほうじん まりふくしかい まりほーむうつみ
種別・施設名 社会福祉法人 まり福祉会 まりホーム内海

ふりがな たけなか まなみ
職種・発表者名： 竹中 愛美

共同研究者名：渡邊美香・横山麻衣子・池田智恵子(まりホーム内海)・井嶋順子・岡本深雪(デイサービス・ラヴィータ)・杉原玲子・柳井田忠茂・森田裕治

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
平成16年7月1日開設 定員18名(2ユニット)

海沿いの静かな場所に位置し、四季折々に表情を変える瀬戸内の眺めは入居者様や訪問者の心を和ませてくれる住み良い環境。地域行事に参加したり、ホーム内行事に参加して頂いたりし、地域に根ざした馴染みの関係を築いている。皆様が安心した穏やかな日常生活が送られる様に専門職や地域の資源を活用しながらサービスの向上に向けた取り組みを行っている。

【はじめに】平成27年1月認知症施策推進総合戦略『新オレンジプラン』で、認知症サポーター養成など全国的な取り組みが推進されている。福山市でも認知症サポーター養成講座受講後、地域でのボランティア活動に認知症の知識を活かしていただくことを目的に認知症サポーターステップアップ研修を開催している。認知症サポーターステップアップ研修終了者のうち希望者が「認知症サポーターステップアップ研修OB会」として月1回程度集まり、情報交換や交流、認知症に関するボランティア活動の検討を行っている。今回、この方々を対象に、介護施設見学ツアーを開催した。実施内容に若干の考察と知見を加え報告する。

【開催経緯】OB会参加者より「サポーターの方が認知症の知識・技術などを生かしたボランティアをしたい。しかし介護事業体の敷居が高い。」という発言がきっかけである。同市でもボランティア需要・供給の調整を行う機関があるものの周知・活用が若干乏しい部分があった。そこで当事業体と近隣の他法人通所介護事業体、認知症サポーターステップ研修OB会の事務局である行政とツアーを企画した。

【企画内容】企画名：「介護施設ぶらっとおさんぽツアー」①対象：OB会参加者②時間：9:30～16:00③内容：介護事業体見学・MTG④ボランティア保険加入(実費)⑤参加費：無料⑥受入介護事業体役割：見学者送迎・昼食提供・MTG参加⑦ツアー

フラッグ作成。これらを双方の介護事業体・OB会参加者・行政等と連絡・調整し準備した。開催当日は見学先で下記①～③を共通事項とした。①施設案内人：各事業体利用者・入居者②事前説明：各事業体スタッフが送迎車で参加者に事業体特性・留意点等説明③見学内容：普段の介護空間

【結果】参加者総数11名(60歳代後半・男性3名・女性8名)、運営スタッフ7名で実施した。ツアー参加者からは、介護事業体の実態、認知症理解は深まり、介護事業体への敷居の改善効果は感じられた。ボランティア・介護事業体側のマッチングまでには至らなかった。

【考察】企画・開催を通して、私たちのイメージ以上に、市民の認知症・介護事業体イメージにギャップがあることが確認された。今後、地域共生・“自律”(自己決定・自己選択)が促進される中で、「百聞は一見にしかず」の想いで、事業体・市民協働で「観て・聴いて・感じる」活動を更に促進すべきであると考えられた。

【今後について】今回は、OB会参加者の何気ない一言から社会的実験の一つとして開催に至った。地域包括ケアシステムは、医療・介護関係者ばかりで論じるのではなく、市民と一緒に踏み出し、共に『観て・聴いて・感じる』事が重要である。また、これが、各種ボランティア活動への一歩に繋がる可能性が伺え、今後のグループホームの新たな役割であることが示唆された。

「介護施設ぶらっとおさんぽツアー」 開催報告

～地域・認知症・介護サービスの共生を目指して～

○竹中愛美 (CW)¹⁾

渡邊 美香 (GH長)¹⁾

井籠 順子 (管理者)²⁾

柳井田 忠茂 (代表取締役・PT)⁴⁾

横山 麻衣子 (介護福祉士)¹⁾

岡本 深雪 (介護福祉士)²⁾

森田 裕治 (経営管理部・PT)¹⁾

池田 智恵子 (介護福祉士)¹⁾

杉原 玲子 (CM)³⁾

- 1) 社会福祉法人 まり福祉会 まりホーム内海
- 2) 社会福祉法人 桜樹会 デイサービス・ラヴィータ
- 3) 認知症サポーターステップアップ研修OB会スタッフ
- 4) 株式会社ホープ



介護施設 ぶらり！さんぽツアー

観て・聞いて・感じてみよう！
貴方の“素敵”をもっと“すてき”に！！

参加費
無料



日時 2017年 5月9日 (火) 9:30～16:00

集合場所 すこやかセンター 広島県福山市三木町二丁目11番22号

お問い合わせ・お申し込みは
杉原まで

定員 先着 8 名様



はじめに

- ① 「認知症」・「介護事業体」・「市民」でのふれあい
- ② 他法人事業体(通所・グループホーム)行政等との連携
- ③ 「利用者」・「市民」社会参加・役割創出
- ④ 介護・市民ボランティアマッチング



実践を通しての相互理解

「必要とするもの」「必要とされること」のマッチング



実施内容

- 参加者
- 11名(男性3名/女性9名)
 - 「認知症サポーターステップアップ研修OB会」の方々
(福山市健康推進課)
- 実施内容
- 介護施設見学
 - 参加者・介護事業体での振り返りMTG



スケジュール

時間	項目
9:20	市内施設「すこやかセンター」へ集合 各事業体送迎車両・スタッフ
9:20~9:30	オリエンテーション (*写真) 予定説明
9:30~13:00	1施設目 介護施設見学
13:00~15:00	2施設目 介護施設見学
15:00~16:00	振り返りMTG(参加者・介護スタッフ合同) →本日の感想、今後について



*オリエンテーション場面



まりホーム内海 風景



6

まりホーム内海での見学 風景

【食事場面】



参加者

【ホームでの座談会】



スタッフ

入所者(案内人)



デイサービス ラヴィータでの見学風景



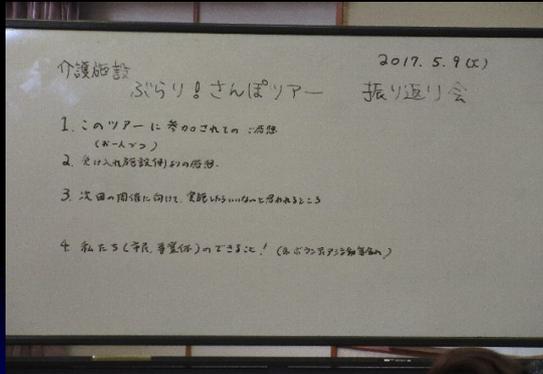
参加者



スタッフ



15:00～振り返りMTG



参加者感想 (抜粋)

まりGH内海

内容
地域行事への参加、見守りを地域と一緒に に行なわれることを大切に感じました。
認知症の対応が、一人一人違うので大変 だろうな〜！でも、私にも何か 出来そうなのがありそうであった。
終の棲家、自然環境、地域といっしょに 見ていくための体制作りが素晴らしい
私たちができることや、認知症サポ ーターステップアップ研修で習った事など を、あたりまえにボランティアなどを 通して活用できればと思った。

ラヴィータ

内容
介護スタッフが、利用者のやっていること に、手を出さないこと・言わない事に勇気 がいたと思いました。
生きがい・やりがいを最重点課題にかかげ、 取り組まれている。素晴らしい！
認知症にならないために、我々も気をつけ ながら、今の私たちにできることを しっかりやっとう。
この施設が沢山できて、認知症の方も特別 な目でみられることなく、地域でも、家庭 でも、きちんと受け入れられる社会作りが 大切だと感じました。

- ・介護サービスへの理解・感動
- ・わが事として捉え、自らも何か出来そう



介護スタッフ感想

まりホーム内海

- ・案内役の入居者さんは施設内を誇らしく説明していて、活き活きとしている姿を見て市民と触れ合う事のすばらしさを感じた。
- ・共に昼食を会食する事で心が通い合い、お別れする場面では、市民ボランティアと利用者が再開を約束するなど、相互に言葉を交わす等され素敵なお一日だった。
- ・市民ボランティアの方に、ただそこにいてもらうだけで、スタッフ・利用者とも、良い時間を過ごす事ができた。

ラヴィータ

- ・何日も前から、マスコットの作成や担当活動の案内文を考えるなど、利用者にとって役割となり、生きがい・やりがい作りに繋がったと実感できた。
- ・改めて自施設の「強み」を考えるきっかけになった。
- ・利用者さんと年代が近い方が傾聴ボランティアで来てくだされば、利用者の心に寄り添って頂け、安心感が生まれるのではと思う。

- ・ボランティアに何かを?ではなく「ただ、いてもらうだけ」でよい。
- ・ボランティア受入、利用者・入所者への役割が生まれる。



考察

- 開催に向けた準備・運営が、計画的に実施されスムーズに進捗し、各事業体も利用者・入所者を巻き込んで実施できたため
- 「認知症」・「介護事業体」・「市民」相互理解促進となり、今後の様々なステップへの礎

市民の方、介護スタッフ、利用者が共に時間を過ごし考える事ができたため



結果

参加者

- 参加者認知症・介護サービスへの、理解、感動などポジティブなイメージになり、「自分ごと」としての認識やボランティアに参加した時のできることを考えられた

介護事業体スタッフ

- 介護事業体スタッフは、ボランティアの方に対して『何かしてもらおう。』 →×
『空間に、ただいていただくこと』 →○
の認識に変化

- ボランティアのマッチングに必要なのは、
● 求める側同士が『お知り合い』になる事
『心のマッチング』をする事



おわりに

- 地域共生・市民ボランティア活用など一緒に感じ、考え、話し合う事
- グループホームは、様々な“つながり”を創出できる可能性
- グループホームは、様々な“つながり”を創出できる可能性





ご清聴ありがとうございました。

